

景品表示法務検定合格者に対する Web アンケートの結果について

令和5年8月8日

一般社団法人 全国公正取引協議会連合会

1. 景品表示法務検定の概要

一般社団法人全国公正取引協議会連合会（以下「連合会」という。）は、消費者庁の後援のもと、令和3年から、景品表示法務検定を実施しています。景品表示法では、事業者は不当な表示や過大な景品提供の防止のため、適切な措置を講じることが求められています。さらに、「事業者が講ずべき景品類の提供及び表示の管理上の措置についての指針」では、適切な管理を行うための担当者や部門の設定、そしてその担当者の資質・知識についての基準が明確にされています。景品表示法務検定は、適切な知識を持った景品表示管理担当者を育成・増強し、事業者が、合格者を自社の管理担当者として任命し、適正な販売促進活動の実施と消費者の信頼を高めるための活動に利用することにより、景品表示法の求める一般消費者の自主的で合理的な選択に資することを目的とするものです。

2. アンケート調査：景品表示法務検定の合格資格の活用状況の確認

連合会は、景品表示法務検定の合格者に対して、合格資格の活用状況などに関するアンケートを実施しました。

3. 今後の取り組み：景品表示法務検定の充実

アンケート結果をもとに、連合会は景品表示法務検定の質を一層向上させるとともに、その認知度を高め、景品表示法の目的である消費者の自主的な選択を支援する活動を強化していきます。

4. アンケート調査結果の概要

調査の概要

令和3年度および令和4年度の景品表示法務検定合格者343名を対象にWebアンケートを実施しました。回答は96名（28%）からいただきました。

主な結果

1. 年齢層：景品表示法務検定の合格者は20代から60代以上と幅広い年齢層にわたりますが、30代と40代の合格者がアンケート回答者の過半数を占めています。
2. 受験の契機：多くの方が会社や所属団体からの情報によって受験しました。次に、連合会からの情報が受験の契機として挙げられています。

3. 受験の目的：多くの合格者は職務上のスキル向上や自己啓発・専門知識の向上を目的として受験しています。
4. 知識のアップデート：87.5%の方が合格後に知識を更新しており、情報の取得手段としてはインターネット、書籍、セミナー・研修が多いです。研修への参加予定は64.6%の方があります。
5. 合格資格の活用：81.2%の方が仕事で合格資格を使用しています。約70%の方が日常的に景品表示法に関する業務で知識を利用しています。
6. 合格資格の評価：職場での評価は、55.2%が「高く評価」または「そこそこ評価」と感じています。キャリアアップに寄与したと感じる方は10.4%、仕事の幅が広がったと感じる方は36.5%です。69.1%の合格者が他の人にも受験を勧めたいと考えています。
7. 自由意見：試験内容の改善要望や、実務への応用・知識の活用に関する意見など、さまざまな意見が寄せられました。

****総評****

景品表示法務検定の合格者は主に30代と40代で、受験者全体の約70%を占めています。今回のアンケート調査から、受験者の多くが職務のスキルアップや専門知識の向上を目的としていることが分かります。合格後の知識のアップデートや資格の実務での活用度は高く、合格資格への評価も比較的良好だと言えます。また、合格者からは試験内容の改善や実務への応用に関するものなど、今後の景品表示法務検定の改善に非常に役立つ貴重なご意見をいただきました。

アンケート調査結果<詳細>

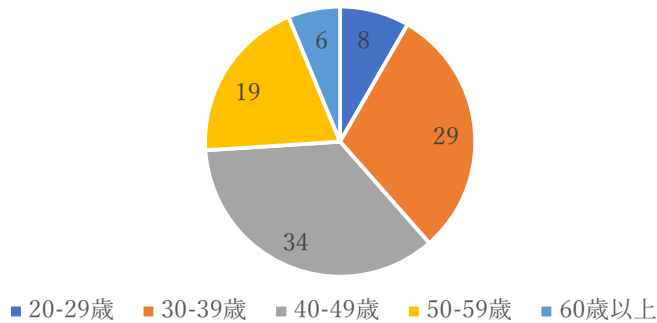
1 調査の対象者と方法

令和3年度および令和4年度に景品表示法務検定に合格した343名を対象に、Webアンケートを実施。96名(28.0%)からの回答を受け取りました。

2 年齢層について

景品表示法務検定の合格者は20代から60代以上と幅広い年齢層に分布しており、特に30代から40代の合格者がアンケート回答者の過半数を占めています。

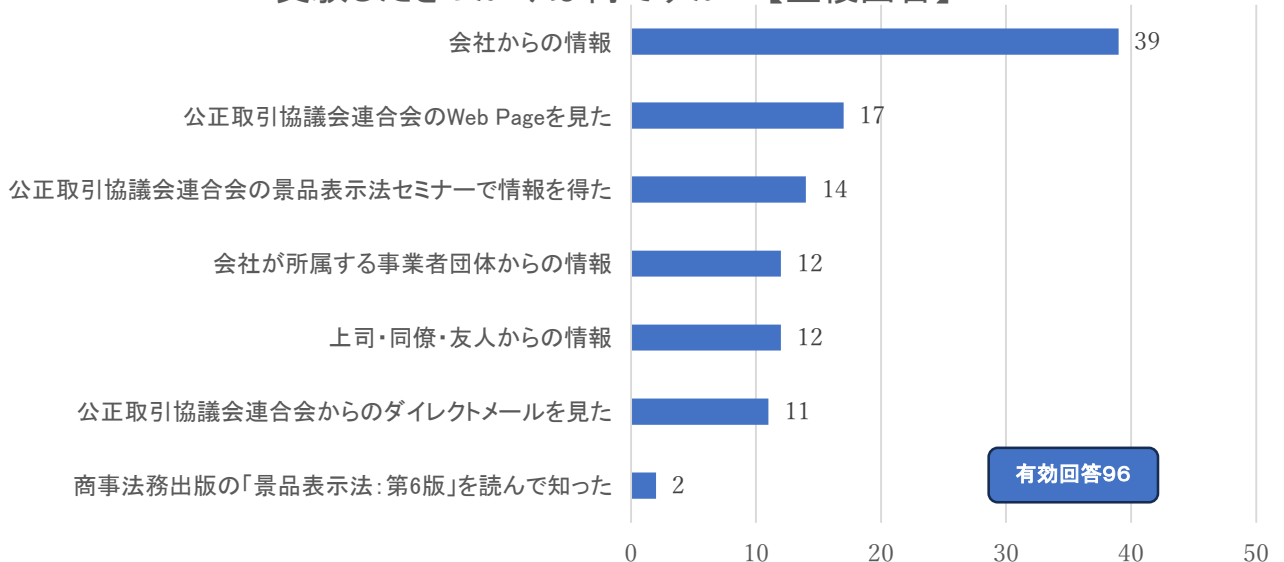
あなたの年齢層は？



3 受験の契機

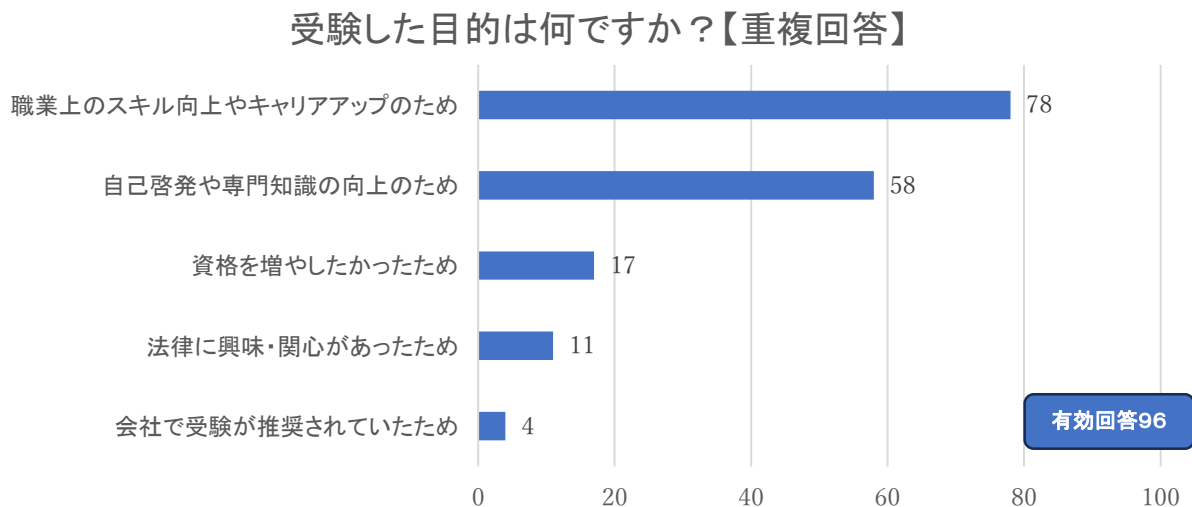
受験のきっかけとして、多くの方が会社や所属団体からの情報を挙げていました。それに次ぐきっかけとして、連合会からの情報（ウェブページやダイレクトメール）が挙げられていました。

受験したきっかけは何ですか？【重複回答】



4 受験の目的

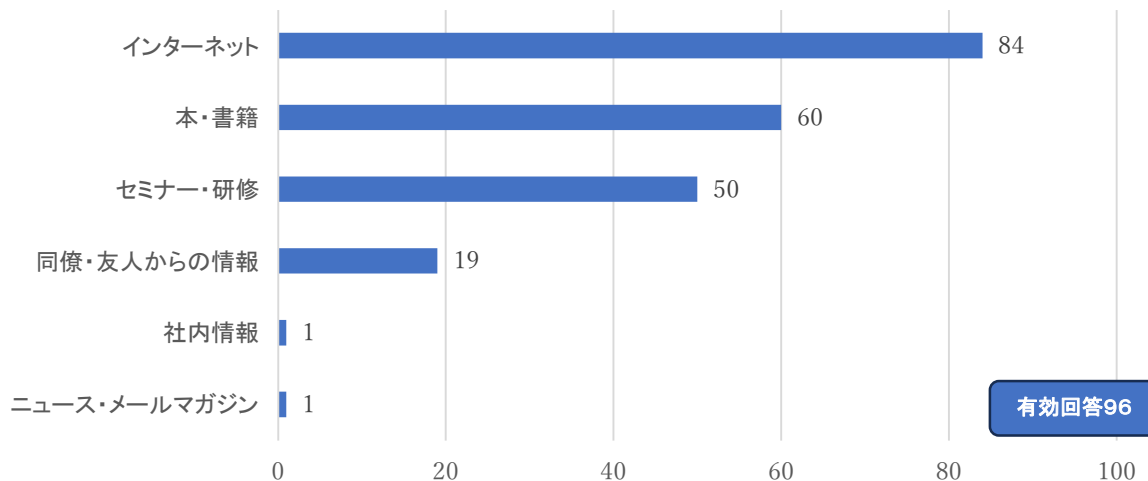
受験した目的については、職務上のスキル向上や自己啓発・専門知識の向上を挙げる合格者が多数を占めていました。



5 合格後の知識のアップデート

合格後の状況について質問した結果、87.5%の人が知識をアップデートしていることが分かりました。情報の入手先としては、インターネット、書籍、セミナー・研修が多く挙げられています。さらに、研修の参加予定についても、64.6%の人が「あり」と回答していました。

景品表示法に関する情報を入手するためにどのような媒体を使用していますか？

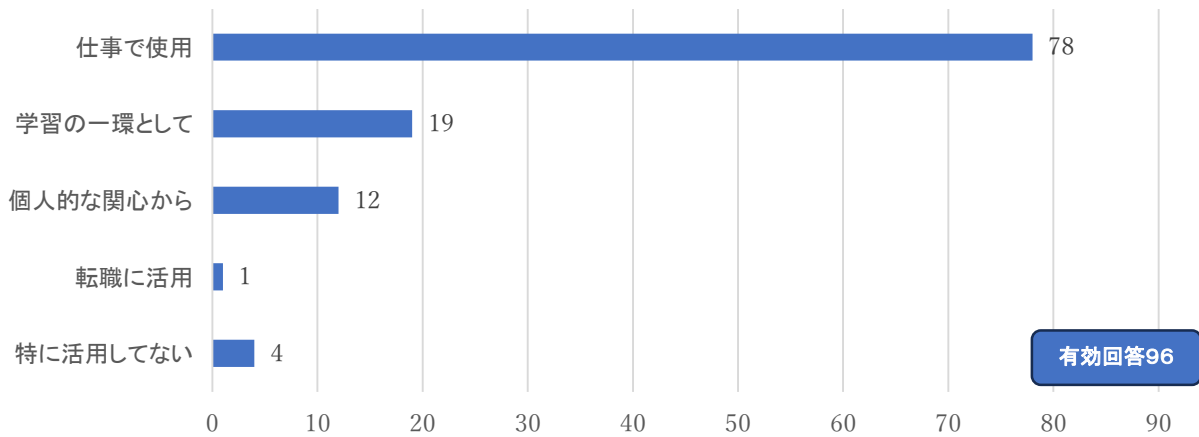


6 合格資格の活用状況

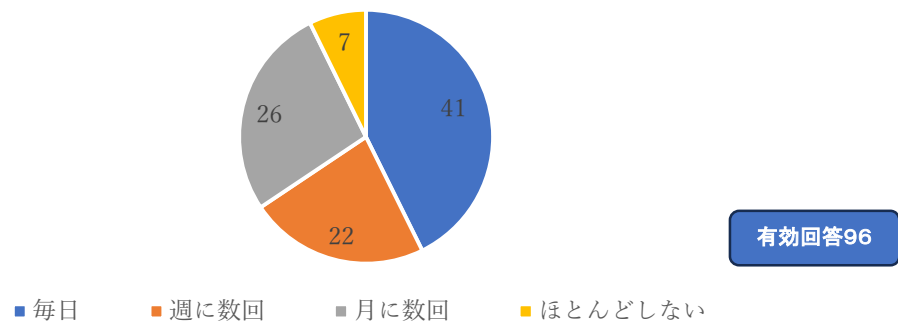
合格資格の活用状況に関して、81.2%の回答者が仕事で使用していると答えています。景品表示法に関する知識の活用頻度を尋ねたところ、42.7%が毎日、27.1%が週に数回と答えており、約70%が日常的に景品表示法に関わる業務で知識を活用していることが伺えます。加えて、元々景品や表示の管理部門に配属されていた合

格者が 89.5%を占め、この資格を取得してから配属された、または配属される可能性があるとの回答も含めると、ほぼ全ての回答者がそのような状態です。これらの結果から、合格資格が景品や表示の管理部門での活用を目的とする本検定の趣旨に沿って実際に利用されていることが明らかとなりました。

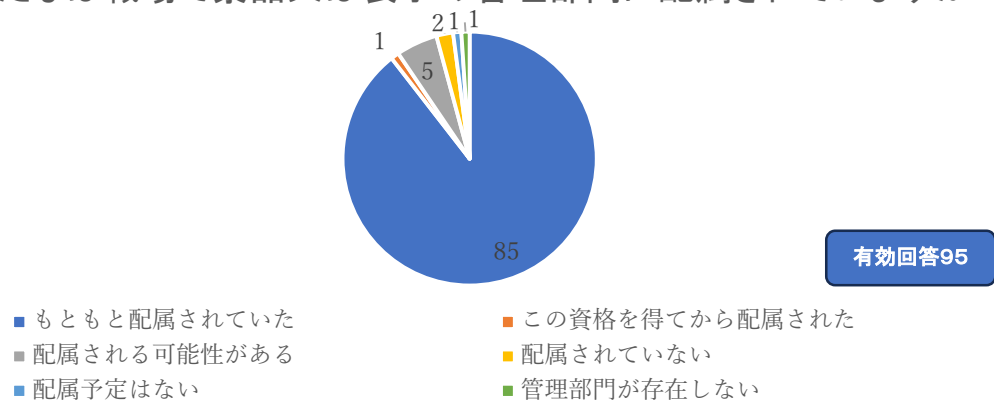
合格資格をどのように活用していますか？【重複回答】



景品表示法に関する知識を活用する頻度はどれくらいですか？



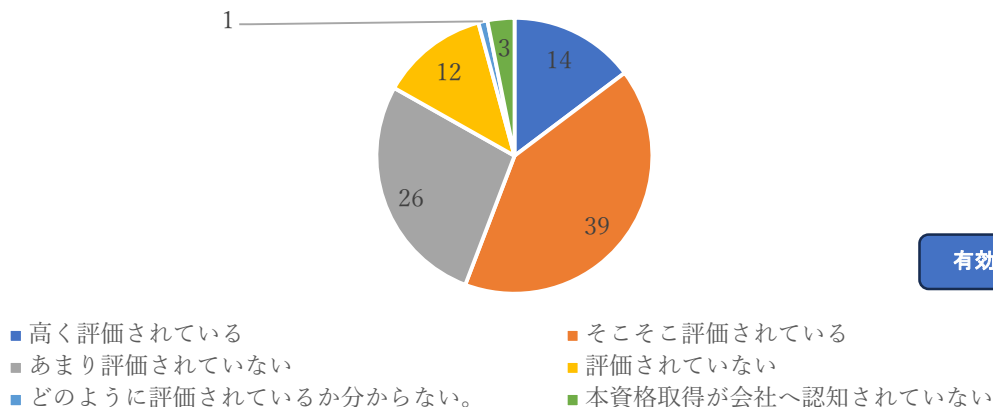
あなたは職場で景品又は表示の管理部門に配属されていますか？



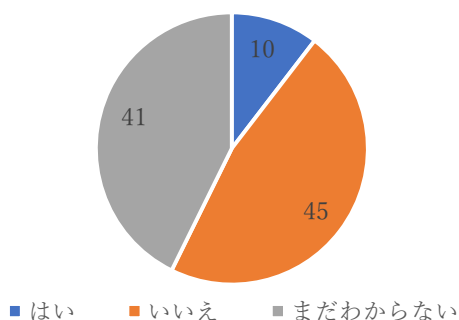
7 合格資格の評価

合格資格に対する職場での評価について、『高く評価』と『そこそこ評価』の合計が55.2%となり、事業者によってはこの資格への評価に差が見られるものの、全体的には一定の評価を受けていることが確認できます。また、この資格を取得してキャリアアップに成功したと感じる回答者が10.4%、資格取得後に仕事の幅が広がったと感じる回答者が36.5%となりました。また、合格者のうち、69.1%が同僚や知り合いに受験を勧めたいとしています。

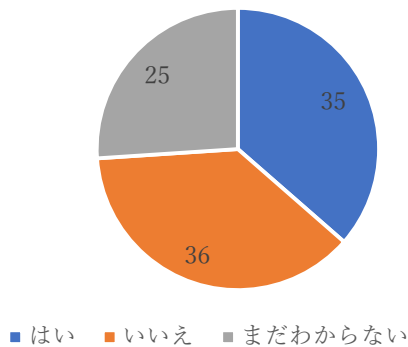
この資格はあなたの職場で評価されていますか？



合格資格を活用してキャリアアップに成功しましたか？



この資格の取得で、あなたの仕事の幅は広がりましたか？



8 自由意見

「景品表示法務検定の試験内容について、改善すべき点はございますか？」という質問で求めた自由回答の結果、以下のような意見が寄せられました。受験者の属性によって意見は多様でした。主な意見を列記いたします。

1. 試験内容・難易度に関する意見

- ・ 基本的かつ体系的な理解を試す試験で良かったと感じました。
- ・ 多くの企業に合格者を出すため、少し難度を下げてもよいのではないのでしょうか。アドバンスの方を難しくすれば良いと感じます。
- ・ 過去問などがなく、難易度は高いですが、その方が取得者の価値が上がり、業務において適正な表示の是正に発言権が持てると思います。
- ・ 現状維持、またはそれ以上の難易度を保っていただきたいです。

2. 試験問題・方式に関する意見

- ・ 実際の事例に基づいた設問が増えると、学習段階や試験後も実務での知識の活用がしやすくなると感じます。
- ・ 試験問題の言葉遣いが難解です。もう少し平易な言葉を使用していただくと良いのではないのでしょうか。
- ・ しっかりと勉強していれば合格できると感じました。特にひねった問題などは感じませんでした。

3. 実務応用・知識活用に関する意見

- ・ 販売に関わる知識としては必須だと思いますので、検定の重要性や知名度をもっと高めていただければと思います。
- ・ 景品の上限額の計算や、不当表示となる NG 表現など、より実用的な内容が増えると、企画・広告制作部門の担当者も推薦しやすくなると思います。